オンライン座談会　開催リポート

“働きやすさ”と“働きがい”が両立する教職、職場へ！

働き方改革と教員採用のこれからを考える

2025年5月24日（土）に、VIEWnext教育委員会版 2024年度 Vol.3の特集テーマと連動したオンライン座談会を開催した。教職を、学校を、長時間労働があたり前ではない、働きがいのある職業・職場にするためには、どのような改革が求められているのかを、誌面で紹介した自治体の教育長が語り合った。その様子をリポートする。

開催概要

日時 2025年5月24日（土）15:00～16:30　**対象者** 教育長など　**形式** オンライン　**参加費** 無料

プログラム
- 3つの教育委員会（茨城県／葛飾区／神戸市）の事例紹介
  「働き方改革で最も注力していることは何か」
- パネルディスカッション
  「今後求められる働き方改革とは？」
  「教育委員会が教員志望者に向けて発信すべきメッセージとは？」

登壇者

柳橋常喜
やぎはし・つねき
茨城県
教育委員会
教育長

小花高子
おばな・こうこ
東京都
葛飾区教育委員会
教育長

福本 靖
ふくもと・やすし
兵庫県
神戸市教育委員会
教育長

モデレーター

庄子寛之
しょうじ・ひろゆき
ベネッセ教育総合研究所
教育イノベーションセンター
主任研究員

2024年度Vol.3はウェブでご覧いただけます！

特集「教育委員会が真にリードする働き方改革」の記事は、教育総合情報サイトVIEWnext ONLINEでご覧いただけます。右の2次元コードからアクセスしてください。

3つの教育委員会（茨城県／葛飾区／神戸市）の事例紹介「働き方改革で最も注力していることは何か」

◎茨城県教育委員会　柳橋常喜教育長

茨城県教育委員会は、教員の確保に向けて、「働き方改革」「教員採用試験の見直し」「教職の魅力向上」の3つの課題を分析し、一体的な改革に取り組んでいる。「働き方改革」では、4月に5時間制の授業を増やして校務をこなせるようにしたり、一部の市町村の中学校で休日の部活動を地域に移行したりしたところ、全校種で教員の時間外等在校時間が減少。「教員採用試験の見直し」では、試験日程の前倒しや1次試験の試験科目「教職専門」の廃止などを実施した結果、2025年度教員採用試験の志願者数は前年度に比べて増加した。また、教員を目指す大学生が優秀な教員にインタビューと、その内容を発信する取り組みも実施。柳橋教育長は、「教員の魅力を発信しながら、次世代の教員を育成していきたい」と述べた。

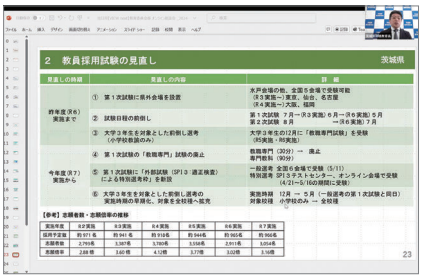

図1　柳橋教育長は、教員採用試験の見直しの内容と志願者数の推移などの詳細も報告した。

◎東京都葛飾区教育委員会　小花高子教育長

葛飾区教育委員会は、教育の質の向上を目的に、ICTを活用した業務負担の軽減を重要施策として位置づけている。校務支援システムを刷新して、校務用と学習用の端末を１つに統合し、教室でも校務系ネットワークに接続できるロケーションフリーの環境を整備。保護者連絡用のアプリケーションや中学校のデジタル採点システム、校務ダッシュボードなどを導入した。2024年度に同区が実施した調査では、「ICTの活用により、校務の効率化が図られた」と回答した教職員の割合は、小･中学校ともに目標を大きく上回った。小花教育長は推進のポイントとして、「ICTの導入には大きな予算が必要なため、何に重点を置くのかを決め、年度の計画や予算について首長部局と話し合い、合意を得ていくことが大切」と述べた。

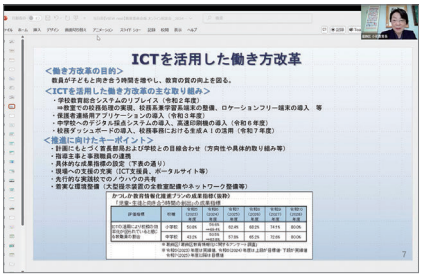

図２　小花教育長は、同区では週３～４回、ICT支援員が各学校を訪問し、教職員を支援していると説明。

◎兵庫県神戸市教育委員会　福本靖教育長

神戸市は、2026年度に中学校の部活動を平日・休日ともに終了し、生徒が地域の多様な人々とともに活動する「神戸の地域クラブ活動」＝「KOBE◆KATSU（以下、コベカツ）」を開始する予定だ。改革を進める上で福本教育長が大切にしているのは、子どもの実態に合わせた改革にすること。そこで、まずは現状把握のために、生徒や保護者にアンケート調査を実施。その結果、価値観が多様化している実態が明らかになった。地域人材から協力が得られれば、活動の持続可能性が高まるとともに、ダンスや料理といった、これまでの部活動にはあまり見られなかった種目が加わり、多様な活動を実施できることが期待できる。そうした改革により、教員採用試験の志願者数にもよい影響があったと報告した。

図３　福本教育長は、コベカツでの指導を希望する教員は、兼職兼業の許可を得ることで可能と説明した。

パネルディスカッション「今後求められる働き方改革とは？」「教育委員会が教員志望者に向けて発信すべきメッセージとは？」

続いて、ベネッセ教育総合研究所の庄子寛之主任研究員による進行の下、パネルディスカッションが行われた。話題の中心となったのは、神戸市の部活動の地域展開だ。まずは同市の福本教育長が、さらにその内容を詳しく紹介した。その後、小花教育長が葛飾区でも部活動の地域展開を検討中であることを明かし、「コベカツ」の活動団体への謝礼などの予算をどのように確保する予定か、質問した。福本教育長は、「計画立案に必要な人員の配備を行ったが、特別な予算は確保していない。活動団体の運営費用は、その団体の活動に参加する中学生の保護者が支払う月謝から賄う予定だ」と説明した。すると、参加していたある自治体の教育長が、「運営費用を全額保護者の負担にしてしまうと、費用が高い活動には参加しにくいといった経済的な格差が生まれてしまうのではないか」と懸念点を提示。茨城県の柳橋教育長も、「本県も地域展開を進めているが、地域ごとに交通の利便性は異なり、指導者や場所の確保が課題だ」と話した。部活動の地域展開には課題も多いが、生徒・保護者の多様な価値観に応えられ、教員の負担軽減といったメリットもある。地域や教員にとって持続可能な活動となるよう、十分な調整が必要であることが参加者間で共有された。

最後に、庄子主任研究員が、教員志望者に向けて発信すべきメッセージを尋ねた。教員出身の柳橋教育長は、「子どもの成長を身近に見られて、自分自身も成長できるのが教員の醍醐味。働く環境を整え、教員の魅力を伝えたい」と述べた。小花教育長は、「志が高く、力のある教員が確保できなければ、教育現場に未来はない。魅力を感じてもらえる職場をつくり、意欲や力のある教員を採用できるよう、努力していきたい」と話した。福本教育長は、「学校のあり方を変えなければ、教員の働き方も変わらない。本市では、部活動の地域展開などの改革に着手し始めたことで、中学校の教員採用試験の志願者数が約１割増えた。これからはすべての子どもが達成感を得られ、教員もやりがいを感じられるように、授業を変えていきたい」と意欲を語った。

参加した教育長の声

- 部活動の地域展開にこれから取り組もうとしていたところだったので、その話が大変参考になった。
- 各自治体で状況の違いはあるが、施策の費用対効果や実施時の懸念点といった共通する課題について、各教育長から生の声を聞くことができてよかった。
- 部活動の地域展開を先行実施している神戸市の取り組みと、取り組みにあたっての割り切りや覚悟の部分に共感し、勇気をもらった。
- 改革を進めるにあたって、首長部局との連携が今後ますます重要になると思った。